

## 第2回奈良県こども・子育て支援推進会議 概要

- 日 時：平成25年11月27日（水）14：00～16：00
- 場 所：奈良県文化会館 2階 集会室A・B
- 議 事：（1）奈良県こども・子育て支援推進会議の審議内容について  
（2）子ども・子育て支援新制度に向けた保育士確保対策について
  - ①「奈良県保育士実態調査」結果の概要
  - ②今後の奈良県の保育士確保対策（案）
- （3）奈良県らしい子育て支援のあり方について

●出席委員：別添出席者名簿のとおり

### ●議事概要

#### 〈開会あいさつ〉

##### ○荒井会長

- ・この会議は、「子ども・子育て」をテーマで開催しているが、女性の就業等生涯にわたるワーク・ライフ・バランスという、より奥深いテーマに入り込んでいる気がする。このテーマは、今の時代、とても大事なテーマだと改めて思う。
- ・会議でいろいろな材料を出ささせていただき、活発な議論を進める段階。今は、来年度の予算のフレームの検討をしているところなので、市町村にとっても、県にとっても、会議で出されたアイデアを拝借できるタイミングである。
- ・大いに活発な意見を頂戴できればと思っている。

#### 〈定足数報告〉

委員12人中10人が出席のため、過半数が出席

#### 〈議事〉

- （1）奈良県こども・子育て支援推進会議の審議内容について
- （2）子ども・子育て支援新制度に向けた保育士確保対策について

##### ○事務局からの資料説明

- ・資料1 奈良県こども・子育て支援推進会議の審議内容
- ・資料2 奈良県保育士等実態調査の結果
- ・資料3 奈良県の保育士確保対策（案）

##### ○各委員等の主な意見

###### 【荒井会長】

- ・本日の議論は、保育士確保とワーク・ライフ・バランスがテーマ。まず前半は、保育士あるいは保育所について、保育士等実態調査の内容を踏まえながら、日頃携わっておられる分野あるいは関心のある分野などについて、ご意見を賜りたい。
- ・保育所における求人は、年度途中から年度末に向けてどんどん増えるといった、年度スパンで波がある。保育士は、公立保育所では安定して雇ってもらえるから、公立保育所を希望する。私立保育所は年度途中で雇おうとしても、私立保育所への求職は無いと嘆いておられるようである。
- ・これをどのようにするのか。保育士の求人・求職の状況について、もっと議論しないとい

けないのではと思っている。

#### 【川端委員】

- ・今は、共働きが多く、女性も働かないと収入が厳しい時代になった。母親も働かないといけないので、保育士が足りないという状況になっていると思う。友人が30年ぶりに幼稚園の先生に復帰した。子どもたちと接するにはとても体力が必要という話を聞いた。
- ・奈良県でも保育士が足りないという状況だが、保育士の採用についてどのように考えていくのが今後の課題。保育士資格さえ持っていればいいというものでもないので、子育てに関する教育とか人間性ということがとても大事になると思う。

#### 【荒井会長】

- ・保育士がどのように足りないのか、どうして足りないのか。また、給与が安いから求職が無いのか、働きがいがないのか、通勤場所が遠いからなのか。これらを分析してマッチングしたり、構造対策を考えることは大変だと思うが、保育士の雇用が増えるためには何が必要かということを考えてくと、ワーク・ライフ・バランスに行き着く。保育士の労働マーケットというものをしばらく大きなテーマの一つにしたいと思う。

#### 【北岡委員】

- ・吉野町では、ここ10年位、施設の統合等で保育士が足りないという認識は無かった。最近では特別な支援をしなければならぬ子どもたちへの保育士の加配や0歳児保育なども行っている。このような対応のために募集すると、まだまだ保育士資格を持っている方々がおられ、それほど困らなかった。今年、久しぶりに保育士の募集をすると、他の私立幼稚園でアルバイトをしていた方が応募されたという状態。
- ・吉野町で学童保育を2箇所始めたが、子育てサポーターを養成してお願いすることにした。結構、子育てを終えたような方々が参加され、このような形でチャレンジしたいということがあると思う。

#### 【荒井会長】

- ・保育士の実際のマッチングをどのようにチャレンジできるのかということは、やはり大きなテーマ。

#### 【栗木委員】

- ・保育は、教育と養護のあいまったもの。保育所では、基本的には生活習慣を高め、そのうえに教育というものを合わせて行っている。だから、採用はどの方でも良いというわけにはいかず、単なる配置基準を守るための採用というわけにはいかないで、保育士確保は難しい。
- ・年度末に向かって、必要な保育士数、求人したい人数が変わってくる。私立保育所は特に、年度末に向かって採用するのが難しい現状。

#### 【荒井会長】

- ・保育は、教育プラス養護だという定義で、教育の部分をどのようにするかも保育の課題であるし、地域の課題。就学前教育をどうすればいいのか、地域の教育力サミットで勉強し

ているが、若い時から身に着けるのは、体力・規範意識・学習意欲。学力が一番あと。

- ・運動神経は5歳から12歳の伸び率が一番高い。知能はいつ伸びるのか、規範意識はいつ伸びるのか、ということを経験して、どこで提供するのかということを経験にしないといけない。

#### 【島田委員】

- ・回答にあったとおり、女性は年齢が上がるほど、ワーク・ライフ・バランスが問題になってくるので、パート・アルバイトなど短時間勤務を望む者が出てくる。
- ・私が勤務している会社でも、同じような実態調査や社員の意識調査というものが行われているが、やはり働いている側としては同じような回答が出ていると思った。
- ・子育てを経験している人をどれだけ働く場に引き込むかというのが大きな課題。働き方の選択肢を増やすのがこれからの課題ではないか。

#### 【荒井会長】

- ・ワーク・ライフ・バランスがすごい勢いで関心を呼んでいて、企業がとても熱心に取り組んでいる。少子化というのは、よっぽど踏ん張らないとだめだ。奈良県は出生率は低いけど、世代別に出生率に違いがあるということが統計でわかった。地域別・年代別の出生率はとても大きな課題になってきている。
- ・女性の人生は大変忙しいということをやっと男性もわかってきた。ワーク・ライフ・バランスの達成のために、子育て支援は必要だということがこの会議の前提になっている。

#### 【末松委員】

- ・私自身も長男を産んだ時にワーク・ライフ・バランスが無茶苦茶になり、辞めないとうとうしようもないと悩んでる中で、いろんな人の助けがあったから続けられた。
- ・保育士養成施設の学生が、保育士資格を取っても一般企業に就職したりして、半分くらいしか保育士にならない。この数字に衝撃を受けた。若い方たちは、保育士としてのやりがいを感じる前に、給与や勤務時間等の条件が大きな問題として感じていると思う。
- ・子育てが終わった方たちやシルバー世代の潜在保育士をどのように保育士の仕事に繋げていくか。また、これから就職していこうという若い人たちに保育士になってもらうということ、この2つは別々に考えるべきであると思う。

#### 【荒井会長】

- ・一生を通じて保育士の仕事を続けてもらうために、保育士を生涯の職業にさせていただけるようにするには、誇りの持てるプロの保育士像というものをどのように確立するのか、また、保育士のキャリアパスをどうするかも課題。

#### 【谷口委員】

- ・私たちの幼稚園でも教諭不足。大阪府で4月に開園される保育所が20箇所、奈良県でもたくさんあるように聞いている。私たちの幼稚園が例えば2人という求人を出しても、1人か2人の応募というような状態が続いている。保育士だけが不足しているという状況ではないと思う。
- ・幼稚園の場合は「免許更新制」があり、30時間の免許更新を受けないと幼稚園に戻って

来れず、かなりハードルが高くなっていると思う。

#### 【原田委員】

- ・県内保育士養成施設の学生の半数ぐらいは保育士を希望していないということがとても意外。今、短期大学はどんどん減り、4年生大学に変わっているが、4年生大学に移行すると、このような形になるのかなという印象。
- ・時代が随分変わり、保育所なり幼稚園の預かる時間が随分長くなったと思う。それに対して働く方としては短時間で働きたい、それも自分の子育てもしながら働きたいという希望が強くなっているように思う。その結果、働く側の希望と雇用者側のニーズがちょっとずれているという思いがする。やはりワーク・ライフ・バランスとか、一度家庭に入った方たちが再就職できるようなシステムが必要だと思う。

#### 【福島委員】

- ・子育て経験をキャリアとして活かせるよう保育士の養成をしようかという取組にとっても興味がある。このような保育士養成をすれば、お母さんたちはフルタイムで働くのではなく、自分の子どもが学校に行っている短時間だけ働けば十分であると思う。意外と手を挙げる人は多いのではないかと感じた。

#### 【吉田委員】

- ・香芝市でも保育士不足。正規職員を雇う以外にも、臨時の職員を雇うという形でその場しのぎでやってきたが、それでも実は保育士が集まらないというのが現状。幼稚園の収容率は50%前後になっているが、こども園になかなか進みきれていないのが現状。
- ・働く側の8割くらいが正規雇用を望んでいない。香芝市でも、実は正規職員を望んでいない方が多いということを現場から聞いていて、本当なのかと思ったが、調査結果を見て本当なのだと感じた。
- ・短時間の4時間や6時間、または午前中だけといった形で雇用を望む方は多いが、現場の働いている側の先生または園長先生は、そういう無責任な働き方は困るという意見。働く側と働く人を求める側のギャップが今、大きく存在していて、まだまだ調整する必要があると感じている。
- ・給与は本当に低いのかというところだが、もう少し看護師とか英会話講師とか、資格を持っていれば1時間でも高給を取れるような賃金体系に変えていかないと、なかなか雇用は厳しいということを非常に感じている。

#### 【荒井会長】

- ・求職が多くて求人倍率が低いのは圧倒的に一般事務員。給料が低くても一般事務員がいいと思っておられる方が多い。保育士として求職される方は、職の意識が高いように思う。

### (3) 奈良県らしい子育て支援のあり方について

#### ○事務局からの資料説明

- ・資料4 ワーク・ライフ・バランス関係資料

#### 【荒井会長】

- ・ふるさと知事ネットワークの会合で、他県に少子化対策に熱心な知事がおられ、山形県、石川県、三重県の知事がこのような資料を出していただいた。奈良県も負けずに勉強しなければいけないし、その時期に来ている。

#### 【吉田委員】

- ・ワーク・ライフ・バランスを進めていくには、一つは働く場が近くに必要だということと、保育サービスが充実していなければいけない。サービス業が多くなってくると、もっと早朝からもう少し遅くまでの保育も当然必要になってくるのではないかと。
- ・もう一つは、企業も変わっていかないといけない。特に、女性の会社役員・管理職も今まで以上にシェアを上げていかなければいけない。女性が男性と同じようにキャリアアップしていくという仕組みが企業には必要であると思う。
- ・女性は子どもを生むということがあるので、1日8時間労働ではなく、2人で年間1,800時間働いて一人として計算する。または3人でシェアをする。一定の期間はそういうワークシェアのような対応をして正社員としての立場とキャリアを確保していける仕組みを作っていく必要があるのではないかと。
- ・女性が男性とほとんど一緒に働いていかないといけないように日本がギアチェンジしているが、まだ社会全体の気持ちの中に、そうはいてもいきなり女性もフルタイムで働くのではなく、5時間、4時間という段階を踏んでいる状態のような気がする。

#### 【福島委員】

- ・主婦の立場として、幼稚園や小学校のPTAの役員になった場合、仕事以上に大変な場合がある。海外では男性もこの役員を担っているが、私が知っているところでは、すべて主婦である女の人が役員を担っている。この部分での男性と女性のバランスを見ていかなければならない。

#### 【荒井会長】

- ・ワークライフバランスのワークの種類もいろいろあるが、女性のライフステージ毎の荷を軽減する社会構造に転換していかなければならない。そのようなテーマをニーズがあるのかどうかを具体的に追求しながら、女性のライフステージに応じたワーク・ライフ・バランスということテーマにしていきたいと思う。

#### 【原田委員】

- ・少子化という点では、結婚した人は結構子どもを産んでいるが、未婚率が上がったために少子化が進んでいると思う。未婚率が上がる背景として、女性が仕事をしたいなど、自己実現への意欲が高まっており、それを捨てて結婚とか家庭に入ることを躊躇する人が多くなっている。必ずしもワークライフバランスという所までまだ行っていないと感じる。
- ・福井県は合計特殊出生率が高いが、ほとんどの女性が働いている。三世同居家庭が多く、また働く場所が近いということは、大きな要因であると思っている。

#### 【谷口委員】

- ・出生率を上げるということが、何より大切。原田先生がおっしゃったように、やはり問題なのは独身の方が多いことではないかと。

- ・幼稚園に来ておられる保護者の方も、ずっと家事、育児に専念したいのではなく、将来、子育てが落ち着いたら働きたいとか、ある程度の方はフルタイムで働きたいとか、パートで働きたいとか、ライフスタイルに合わせて選ばれるのではないのか。
- ・それぞれの家庭がどうしたいのかということをもまず優先し、それが実現できるように、社会が支えるということが大切だと思う。働きたい方はそのまま働けるように、家事育児に今は専念したいという方についてはやはりそれを認めて、将来はきちんと再雇用できるようなシステムを作ることが大切ではないかと考えている。

#### 【末松委員】

- ・女性は本当に自立しているのかと思う。女性を精神的に追い込んでいるのは、男性でも社会でもなく、実は女性自身ではないか。女性は、目の前に立ちふさがる問題があると、「私は子ども小さいから」「私は働いているから」ということを逃げ道にしてみたり、女性同士の中で対立しているようなことがあったら、全然先に進んでいかなければいけないのか。女性は甘えるところは甘えていいが、甘えてはいけないところで甘えることは、自分たち自身が自分たちの首を絞めていることになりかねないのかなと思う。
- ・保育士の確保ということを考える場合、社会的養護を担う乳児院や児童養護施設等の保育士のことも考えていただきたい。

#### 【荒井会長】

- ・女性のうつが増えていると聞く。頑張るところは頑張り、頑張らないところは頑張らないといったことも、ワーク・ライフ・バランスの要素として考えないといけないと思う。

#### 【島田委員】

- ・ワーク・ライフ・バランスは、本当に難しい問題。会社が考えるワーク・ライフ・バランスと行政が考えるワーク・ライフ・バランスのベクトルがそれぞれの立場で少しずつれている。これからは、考え方を一体化して進めていかなければならないと思う。
- ・子育て中の働く女性たちが、今一番、心配していることは、災害時に災害対応をしなければならないので、帰宅できないということ。その時、一体誰が子どもたちやお年寄りを見守ってくれるのか。こういう部分も考慮していただきたい。

#### 【栗木委員】

- ・昔の日本では、子どもが熱を出して、仕事をしている母親がどうしても家に戻って来れない時は、祖父母がその部分を補完できた。そういった力も活用できればよいと思う。
- ・先日、保育園の子どもたちと一緒に脱穀をした。こういった食に関する基本的なことも、家庭の中でいろんなか形で教えてもらえた。今後、ワーク・ライフ・バランスを考える中で、祖父母の知恵といった昔の日本の良さというものも上手く活かさないかと思う。社会自体が、ワーク・ライフ・バランスに対してまだ未成熟かなというのが私の今の意見です。

#### 【北岡委員】

- ・働き方にはいろいろなパターンがある。それぞれの人に合わせた働き方ができるよう、相談できることが必要。育児で休んでいる間に研修をするなど、いろいろなレベルのサポートを考えていかなければならない。

- ・出生率を高めるため、生き方のモデルみたいなものを示してはどうか。全体的なムードを作っていないと出生率というは上がっていかないと思う。

#### 【川端委員】

- ・ワークライフバランスは、企業が本気になって取り組んでいかないとすぐにはできないと思う。早急に各企業が経営計画の中に位置づけていく必要がある。

#### 【井上委員】

- ・私の勤めている企業では、かなりワーク・ライフ・バランス制度は整っていると感じている。ただし、課題として二つある。一つは、女性のキャリアアップを考えた時には、まだまだ制度としては準備しきれていないこと。もう一つは、男性がまだ育休など、こういう制度を利用しにくい雰囲気が職場にある。

#### 【荒井会長】

- ・消費税が上がると子育て支援策にお金を使うという制度になり、どのように子育て支援するのかについては、国の制度どおりしないといけない部分もあるが、地域ですべきことをどんどん考えはじめているという面もある。
- ・子育て支援策は、社会保障の4分野の一つとなり、大きくなってきている。しかし、国も地方も子ども・子育てにどのようにお金を使えばいいのかという体系的な勉強があまり進んでいないように見ている。
- ・今後この会議のフレームをどのようなものにしていくのか。保育士確保やワーク・ライフ
- ・バランスというのも大きなテーマだが、事務局は会議での今後の議論のフレームをどのように考えているか。

#### 【西岡こども・女性局長】

- ・本日、議論いただいた二つの柱以外の大事な柱として、いわゆる働くという部分だけではなく、奈良県で子どもを育てている母親への支援、そういった子育てにかかる部分も議論の柱に加えさせていただいて、平成27年度から新制度になっていく課程の中で、奈良県の子どもを育てるしくみを作っていきたいと事務局では考えている。勿論、県計画を策定しなければならないといけないので、策定スケジュールと合わせて議論を進めさせていただきたい。

#### 【荒井会長】

- ・本日の資料1の1ページ目に、審議項目として、家庭・地域における子育て支援、結婚したい若者への支援、幼児期の学校教育・保育の提供、保育士等の人材確保・質の向上に加えて、児童虐待防止対策、社会的養護、障害児施策等の分野が入っている。それとワーク・ライフ・バランスということになっているが、これら子ども・子育て支援として審議の対象としたい。
- ・議論して勉強を進めるということも大事。また、他の県に負けないような何らかの施策を進めるべきだし、何かまとまった塊があったほうが力強くなるような気がする。
- ・人口が少なくなることを嘆いてもしかたがないけれど、それを危ぶむことはしなくてはな

らない。人口減少社会のしわ寄せは、女性や経済弱者に来るのではないか。そういうことを見つめながら、地域は落ちこぼれないようにしていこうというのが、私の強く思うところ。努力をすれば、地域はそういう環境の変化でも生き延びる力が育つのではないか、ということをつつと勉強していくべきではないか。強い心を持って課題に取りかかっているつもりであるし、取りかかる必要があるのではないかと思っている。

- ・ワーク・ライフ・バランスに関して、もっと多くの人に理解を求めた方がいい。有識者に研究成果を披露していただけるようなセミナーを開催するなど、ワーク・ライフ・バランスの勉強を早く進めて、できるだけそれを外に展開していきたい。

#### **【北岡委員】**

- ・吉野町において、子ども・子育て会議を始めるのだが、他の市町村も始められるので、県と市町村との議論の整合性を取る、そのようなモデルはないか。

#### **【辻子育て支援課長】**

- ・新制度に向けて、ブロック別圏域会議を開催している。節目節目で圏域会議を行っていきたい。また現在、市町村において子育てに関するニーズ調査をされているので、その結果について協議していただくことになると思う。

#### **【荒井会長】**

- ・県域全体で子ども・子育てをテーマに議論することも必要。県は他の県とも議論を始めていて、このような議論が進めば、それを市町村サミットのテーマにしたり、地域のテーマにしたりすることは、県と市町村との付き合いの道筋が今までないほどいろいろできている。
- ・議論の塊ができてくると、発信したり関係者とさらに歩調を合わせたりすることも可能になると思っている。全体のしっかりした勉強をもう少ししなくてはならないと思っている。また、来年よろしく願いたい。